

新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインを踏まえた楽団の対応方針

☆中央区交響楽団は、中央区立社会教育会館の利用にあたり、以下に対応してまいります。

1. 利用の前に

- ◆ 楽団員(見学者、エキストラを含みます)に対し、本対応方針を周知します。指揮者に対しても、本方針への理解を求めます。
- ◆ 入室者の氏名・連絡先を事前に把握し、入室者リストを作成し一定期間保管します。感染者が発生した場合は必要に応じて保健所等の公的機関へ情報提供することを周知します。
- ◆ ホールの人数制限を順守するために、別途定める「コロナ対応リハーサル運営ガイドライン【リハーサル会場の人数制限への対応策】」に基づき、入室者数を事前に把握し、制限を超えないように調整します。
- ◆ 利用日においては、三密(①密閉②密集③密接)にならないような運営を心掛けます。

2. 楽器を演奏するリハーサル時の館内利用

- ◆ 演奏中を含め、常にマスクを着用します(管楽器奏者も吹奏時以外は着用します)。
- ◆ 入室の際に密にならないよう、利用の際は時間に余裕をもってくるようにします。
- ◆ 退出の際は、距離を空けて順次退館するようにします。
- ◆ アルコール消毒剤を楽団で配置し、出入りの際の手指消毒を徹底します。
- ◆ 非接触検温計を楽団で用意し、ホール入口で検温を実施します。平熱と比べ高い発熱のある場合や体調不良の場合は、入室を断ります。
- ◆ 入室者リストに各人の体温を記入します。リストは少なくとも1か月間保管します。
- ◆ ホール内では、演奏者同士・指揮者との間隔を可能な限り広くとります。
- ◆ 譜面台は一人1本とし、各自持参します。必要な備品も各自持参し、接触感染を回避するようにします。
- ◆ 管楽器の水抜き対策としてペットシートを楽団で用意し、リハーサル中の水抜きは必ずペットシートにするよう徹底します。終了後はペットシートを各自ビニール袋(小)に入れて持ち帰り、処分します。
- ◆ リハーサル中に話をするのは基本的に指揮者のみとし、楽団で用意したピンマイク・スピーカーを使用します。
- ◆ 休憩はこまめにとり(50分演奏・10分換気のパターンで実施)、休憩中は外に音が漏れないよう音出しを禁止します。
- ◆ こまめな手洗いを徹底します。特に管楽器奏者は休憩時間毎に手洗いを励行します。
- ◆ 指定された場所以外では飲食しません。
- ◆ リハーサル終了後、使用した椅子・備品等をアルコール消毒します。
- ◆ 降り番で楽屋を使用するときは、密にならないよう十分な間隔を保ちます。ホールと同様の水抜き対策を行いますが、ペットシートは使い回しせず、新しいペットシートを使用します。

3. その他

- ◆ 上記のほか、施設毎のガイドラインを遵守します。
- ◆ 万が一、感染の疑い・感染者が出た場合は、至急施設の担当者に連絡します。
- ◆ 保健所等から協力要請があった場合はこれに対応します。
- ◆ 施設の感染予防対策に協力するとともに、新型コロナウイルスの感染リスクがあることを理解した上で利用します。
- ◆ 感染者が出た場合の施設消毒について費用を負担する必要があることを理解の上、上記対応を徹底します。

中央区交響楽団

改定履歴

2020年12月17日 制定